

		令和7年度 西東京市立ひばりが丘中学校 学校評価			5：達成率90%以上 2：達成率40%以上	4：達成率80%以上 1：達成率40%未満	3：達成率60%以上
学校教育目標		広く国際社会を創造性豊かに、たくましく生きる人をめざして ・自ら学ぶ ・豊かな心 ・夢の実現					
目指す学校像	【目指す学校像】	「地域、保護者の期待に応える学校」●生徒の力を伸ばし、一人一人が主役となる学校●生徒、保護者、地域から信頼を寄せられる学校●組織力が高く、柔軟な対応力や確実な実行力のある学校					
	【目指す生徒像】	「知・徳・体のバランスがとれた生徒」●授業を大切にし、自ら考え主体的に学ぶ生徒 ●豊かな心を育み、夢の実現を目指して未来を切り拓く生徒 ●健康と体力増進に自ら努める生徒					
	【目指す教師像】	「高い人権意識と実践的指導力をもつ教師」●人権意識を高くもち、『西東京あったか先生』を実践し体罰その他の服務事故ゼロに全力で取り組む教師●学習指導力、生活指導・進路指導力、組織貢献力、外部との県警衝衝力をバランスよく高め学び続ける教師●共に高め合い学び続ける教師●働き方改革を実践し豊かな生き方を示すことができる教師					
本校の実態と課題		○「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業、また「人権に関わる普遍的な取組として人権尊重の理念を大切に授業」を実現するために、ICTの効果的な活用、ひばりスタンダードによる話し合い活動などを効果的に取り入れた授業を展開していく。西東京市の特別支援教育の理念を実現する特別支援学級や巡回指導を通して本校の特別支援教育を充実させるために、通常学級と特別支援学級の教員の強力な連携を図ってきた。今年度は、これらの取組のさらなる充実を図ることや、令和6、7年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校として人権教育を推進し、近隣地区に啓発していくことを課題とする。					
具体的方策		取組指標 (教員)	成果指標 (生徒)	成果指標 (保護者)	学校の取組及び改善策		学校関係者評価記入欄
自ら学ぶ力の育成	ねらいを明確にし、生徒が主体的に課題に取り組み、ねらいに基づいた振り返りの活動を充実させ「主体的・対話的で深い学び」を実現する質の高い授業を実践する。	5	5	4	計画通り全教員がねらいを明確にした研究授業を行った。授業においても、見通しをもたせるため「ねらい」をはっきりさせ、生徒が興味をもてるよう発問の提示の仕方を工夫したり、振り返りで本時の内容を確認させたりして、時間単位で身に付ける力を明確にできた。その結果、生徒は「授業はわかりやすいか」「授業のねらいや目標がわかりやすいか」「先生はわかりやすい授業を進めるための工夫をしているか」という質問に高い評価をしている。		教員・生徒の双方から「わかりやすい授業である」と評価されている点は、良いことである。今後も工夫を重ねながら授業づくりを継続してほしい。また、これまで2年間取り組んできた人権尊重教育の成果についても、授業の中に積極的に反映させていだけることを期待している。
	授業内の活動において、記録する・要約する・説明する・論述する場面をより多く設定する。生徒が自分の考えをまとめる活動や話し合い活動においては、「ひばりスタンダード」を全教科で共通の取組とし、生徒に主体的に学習活動に取り組ませる。	5	4	4	主体的、対話的で深い学びを実現するため、話し合い活動「ひばりスタンダード」を全教員で実施した。今年度も毎月研修を行い、教科横断的にすべての教科で実践することに取り組んだ。既に全国学力学習状況調査では肯定意見が全国平均より11ポイント、東京都平均より8ポイント高い評価が出ている。また、学活や道徳の場面でも、例年以上に意見交換をする場面が多くみられるようになっている。		「ひばりスタンダード」の取組を通して、日頃の授業の中で生徒の主体的な発言を引き出すことができている。意見発表や話し合い活動の場面においても、自分の考えを自信をもって伝えようとする姿が見られた。
	学習用タブレット端末を効果的に活用するために、授業での教材の提示、調べ学習、思考過程の可視化、発表や発信、及び家庭学習を充実させる。	5	4	3	一人1台のタブレット使用が定着しており、デジタル教科書を含め、より活用の幅が広がった。また、「効果的な活用」の仕方について教員研修を行ったことで、研究授業に取り組んだ教員も多い。「タブレットを家庭学習でも活用している」という質問に対しては、保護者、生徒とも60%未満であるため、来年度は、タブレットを家庭学習でも効果的に使用できるよう工夫していく。		タブレット端末を活用した学習が定着してきている。デジタル教科書の活用も好感もてる。昨年度も課題であったが、家庭学習でもタブレット端末の使用を奨励してほしい。
豊かな心の育成	考え、議論する道徳の授業や人権教育を充実させ、生徒の心の成長を促すために、自己を大切に、他者を尊重し合う豊かな心を育てる指導を行う。	5	5	4	「他者を思いやる心を意識することができる」という質問に対しては、保護者の87%が肯定的な意見をもっており、生徒の96%が思いやりの心をもって生活を送っていると回答している。令和6・7年度 東京都教育委員会人権尊重教育推進校としての成果を来年度以降も継続させていく。		人権教育は、今の子どもたちにとってとても大切なものである。教員、生徒、保護者とも評価が高いことはすばらしいことである。また、今年度のリーフレットは昨年以上にすばらしいものであった。
	学校行事や生徒会活動、部活動などの諸活動を通して、生徒自身の学級・学年・学校への所属感や自己有用感を育てる。	5	5	4	「行事・学級活動・道徳の授業などを通じて、自分の心を成長させることができている」と答える生徒の割合が96%となっている。また、3年生の面接練習においては、ひばりが丘中の自慢として「生徒主体の行事」や「あいさつが盛んである」、「生徒間、生徒と教員の仲が良い」とあげる生徒が多いことや行事後のアンケートにおいて、肯定的な意見が9割を占めていることから、自己有用感や所属感が育まれていることがわかる。		生徒会本部役員の取組、各種委員会活動など生徒の主体的な取組が充実していることが肯定的な意見に直結していると考えられる。また、ボランティア活動も年々活発化していることにも好感もてる。
	生徒同士でいじめられたり、無視されたりすることなく安心して学校生活を送れるように、教員間で生徒情報の共有を積極的に行い、いじめの防止および早期発見に努める。	5	5	3	すべての教職員が「いじめ防止基本方針」を理解し、日頃から『報告連絡相談確認』を徹底して、いじめの防止、早期発見、早期解決に学校をあげて取り組んでいる。その結果、「いじめられたり、無視されたりすることなく、安心して活動できている」と答える生徒は97%にのぼっている。ただ、今年度も保護者の評価との乖離がみられるため、保護者との情報共有を一層充実させる。		いじめの対策、不登校対策など組織的な取組は良い。保護者の評価と乖離がみられることが課題であるが、子どもたちが安心して過ごせることがやはり大切であり、継続してほしい。
	挨拶や言葉遣い等の社会におけるルールやマナーの大切さを伝え、規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣を身に付ける。	5	5	4	「自分で考えて行動する」指導を継続している。その結果生徒は91%、保護者は89%が「時間・挨拶・言葉遣いなど、集団のルールやマナーに気をつけて学校生活を送る」ことができていると回答している。また、移転して5年余りが経ち、最初は心配していた地域の方々からも、ひばり中学生としての振る舞いに高い評価を得ている。		子どもたちは校内で顔を合わせると、自分から進んで挨拶をしてくれる姿が多く見られる。日常の何気ない場面からも、基本的な生活習慣が身に付いていることが感じられ、社会規範意識の高さが育まれていると感じる。
夢の実現	三年間を見通した進路指導計画により、生徒が自分及び自分の生き方に自信をもって進路を切り開いていけるように指導・支援する。	5	4	3	学校目標である「夢の実現」に向け、三年間を見通した進路指導に取り組んできた結果、生徒は中1の段階から「進路学習≠進学学習」ではないということを理解しているが、今年度も保護者への浸透が不十分な現状が見られる。今後もより進路学習について、探究的な視点も含め、学年だよりやキャリアパスポートを活用して、取組の内容を積極的に発信していく必要がある。		おやじ倶楽部による職業講話や、ふるさと探究学習や職場体験の支援は今後も継続していきたい。キャリア教育については、社会の変化に対応できるよう、これまで以上に内容の充実・更新を図る必要がある。今後の重要な課題として位置付けてほしい。
地域との連携	学校ホームページや地域行事、地域の会合などを通して、学校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。	/	5	5	毎日の学校ホームページの更新を通じて日々の取組の様子を、また、月1回の学校便りや、学年便りでは、学校の考え方を積極的に発信してきた。その結果、生徒は96%、保護者は97%が好評価をしている。今後も、この取組を継続していくと同時に、保護者や地域の声にも、より一層耳を傾けていきたいと考える。		ホームページが日々更新されており、学校の様子が大変分かりやすく伝わった。保護者や地域の方々からも好評を得ている。また、「すぐーる」配信される学校だよりや学年だよりも、毎回楽しみにしている。来年度も引き続き、継続してほしい。
	学校運営協議会を中心に学校と地域・保護者との交流を図り、地域に貢献する教育活動を推進する。	4	4	4	学校運営協議会を中心に学校とPTA役員、おやじ倶楽部、学区内運協、地域団体と連携、協働することができた。「ひばりんピック」、「ひばりマラソン」、「ひばりカフェ」、「谷戸小の芝刈り」等を推進してきた。ボランティア活動を希望する生徒も増えてきた。今後も地域に貢献できるよう推進していく。		「ひばりんピック」は昨年度以上に拡大。生徒・教員ボランティアも増加。ひばりが丘中が、地域の拠点となり、地域に貢献している。さらに近隣との防災の繋がりも強固になってきている。さらなる高みを目指してほしい。
働き方改革	机上を整理し、効率的に仕事を等にする等にも努め、過当たりの在校時間が60時間を超えない。ライフワークバランス意識して、20日以上休暇取得を推進する。	3	/	/	校務のスリム化を目指し、行事内容の精選、各業務のデータの共有、連絡ツール「すぐーる」の活用など、組織的に業務改善を行ってきた。また、業務研鑽日の拡充やライフワークバランスを意識した休暇取得を奨励した。		現在も土日を含め遅くまで勤務する職員の皆さんがいます。予算や人材の拡充とともに、子どもと教職員がゆとりをもって活動できるよう、働き方改革を一層進めていただきたい。
	部活動支援員やSSS、学習ボランティアなど、外部人材の利活用や、経営支援部を充実させることにより、よりよい教育活動を展開するとともに、組織的に働き方改革に積極的に取り組む。	3	/	/	外部指導員やSSS、ICT支援員、生活指導員等の外部人材の利活用をより効果的に活用できた。経営支援部を充実させ、教員と学校職員との効果的な連携を進め、組織的な働き方改革を目指す。		外部指導員やSSS、ICT支援員、生活支援員等の外部人材の利活用をさらに続けてほしい。部活動の引率など、保護者をお願いできることはお願いして働き方改革につなげてほしい。